



官
刻
孝
義
錄

卷
五

武
藏
上

9
1596
5



1596
5



孝義錄卷之五

武藏國上

忠義者

江戸町奉行支配所
新井本町

○忠義者

同支配所
浅草東仲町

忠義者

同支配所
浅草東仲町

忠義者

同支配所
浅草東仲町

孝行者

同支配所
浅草東仲町

○忠義者

同支配所
新井本町

孝義錄卷之五

町人家持加賀至

長之助

享保七年
津養長

醫者借公住安中益庵下男

万助

享保七年
津養長

町人借公住四所下男

源八

享保七年
津養長

町人借公住江戶

加之助

元文元年
津養長

町人借公住江戶

半七

元文元年
津養長

醫者借公住石川東雲下男

久助

元文元年
津養長

六十七歳

○孝行者

同支配所 神田多町三丁目

○孝行者

同支配所 本所松坂町三丁目

孝行者

同支配所 本八町堀町

忠義者

同支配所 五所三郎町

○忠義者

同支配所 通油町

忠義者

同支配所 麻布市三浦町

忠義者

同支配所 本船町

忠義者

同支配所 牛込赤坂筆堂寺前

町人借居住

吉五郎

天明七年 沖繩員

町人借居住

赤松

寛政二年 沖繩員

召主

十九郎

寛政三年 沖繩員

町人借居住筆堂長次郎下男

新助

寛政三年 沖繩員

町人借居住馬具長吉下男

小之助

寛政三年 沖繩員

町人家主

平七

寛政三年 沖繩員

町人借居住長仲實仁下男

金若

寛政三年 沖繩員

町人借居住

伊多清

寛政三年 沖繩員

○忠義者

同支配所 芝濱松町三丁目

○忠義者

同支配所 桶町一丁目

孝行者

同支配所 本所柳崎町

奇特者

同支配所 坂中町一丁目

奇特者

同支配所 永澤町

孝行者

同支配所 牛込納戸町

孝行者

同支配所 浅草飯坊町

○孝行者

同支配所 牛込北門町

町人家持素丸下男

源七

寛政三年 沖繩員

町人家主五左衛門下男

主助

寛政三年 沖繩員

町人借居住

平吉

寛政三年 沖繩員

醫者借居住

米田一貫

同時 沖繩員

町人借居住為替屋

甚之助

同時 沖繩員

町人借居住岡右衛門

久米大郎

寛政三年 沖繩員

町人借居住表具屋

忠五郎

寛政三年 沖繩員

按摩取借居住玄吉女

乙子

寛政三年 沖繩員

孝行者 日支配所 上野北大門町

孝行者 日支配所 豊後町一丁目

孝行者 日支配所 中之郷在町

孝行者 日支配所 下台茅町二丁目

孝行者 日支配所 神田富松町

孝行者 日支配所 約込富吉前町

孝行者 日支配所 元教寺屋町二丁目

孝行者 日支配所 森友町

町人家主

町人借居住

町人借居住

町人借居住

町人借居住指物衣衣八牌

町人借居住土持怪子

町人借居住榊程至太平寺末冷男

町人借居住森八牌

四郎左衛門 寛政三年 沖齋次

武蔵 五十九歳 寛政三年 沖齋次

平次 三十七歳 寛政三年 沖齋次

富次郎 三十八歳 寛政三年 沖齋次

安次郎 十八歳 寛政三年 沖齋次

定次郎 四十一歳 寛政三年 沖齋次

三之助 二十二歳 寛政三年 沖齋次

勘次郎 二十二歳 寛政三年 沖齋次

孝行者 日支配所 惣子町

孝行者 日支配所 霊岩寺清銀町三丁目

孝行者 日支配所 後田町二丁目

孝行者 日支配所 海部屋敷町二丁目具代地

孝行者 日支配所 下谷山伏町

孝行者 日支配所 小石川上富坂町

孝行者 日支配所 本芝三丁目

孝行者 日支配所 小日向水道町

町人借居住根元

町抱女馬之者

醫者借居住

町人借居住基多勝平致道公表

町人借居住

町人借居住

桶師借居住

町人借居住次有忠娘

元七 三十五歳 寛政三年 沖齋次

伴之助 四十九歳 寛政三年 沖齋次

鳥飼要人 三十四歳 寛政三年 沖齋次

祐心 六十四歳 寛政三年 沖齋次

龜之助 三十五歳 寛政三年 沖齋次

利玄清 五十九歳 寛政三年 沖齋次

庄右衛門 三十一歳 寛政三年 沖齋次

下川 三十九歳 寛政三年 沖齋次

孝行者

日支配所
白金堂町土町目

孝行者

日支配所
約込高林寺門前

孝行者

日支配所
南八町堀一町目

孝行者

日支配所
本八町堀二町目

孝行者

日支配所

孝行者

日支配所
南飯治町

孝行者

日支配所
深川富者町

孝行者

日支配所
青山渡嘉町

町抱人足

町人家主木綿屋

久次郎

寛政三年
三十七歳

傳玄清

寛政三年
三十二歳

次房吉

寛政三年
二十七歳

仙右馬

寛政三年
四十一歳

世の

日時
寛政三年

久太郎

寛政三年
二十一歳

清庵

寛政三年
三十三歳

平次郎

寛政三年
二十七歳

醫者

堀清庵

町人家主吉右馬

○孝行者

日支配所
深川少松代町四町目

○孝行者

日支配所
芝倉長渡町

○奇特者

日支配所
小畑町三町目

○奇特者

日支配所
儀基三間町

○奇特者

日支配所
小石川七軒町

○奇特者

日支配所
小石川指谷町三町目

○貞潔者

日支配所
南松町

○奇特者

日支配所
芝倉渡町

町人借居住輿桶屋

勝三郎

寛政三年
二十九歳

權師借居住吉馬

岩次郎

寛政三年
三十五歳

町人借居住水油屋仲買

佐七

寛政三年
六十一歳

町人借居住

傳六

寛政三年
五十五歳

町人家主質屋

平三郎

寛政三年
三十一歳

町人家主吉右馬

次房吉

寛政三年
六十三歳

町人借居住六右馬

内川

寛政三年
四十一歳

町人家持

新右馬

寛政三年
七十二歳

奇特者

日支配所
神田丸形町代地

孝行者

日支配所
神田平永町

忠孝者

日支配所
三子間七町目

孝行者

日支配所
赤坂裏傳馬町三町目

孝行者

日支配所
本御金助町

孝行者

日支配所
浅茅枝木町

忠義者

日支配所
龜町平門町二町目

忠孝者

日支配所
南堀町二町目

町人借居住立

清八

寛政三年

町人家主

弥三

寛政四年

町人家主文右衛門下男

八

寛政四年

町人借居住立中津妻

乙

寛政四年

町人借居住立八郎

百之助

寛政四年

町人借居住立六郎

市太郎

寛政四年

町人借居住立九三郎下男

佐次郎

寛政四年

町人家主春米左下男

忠七

寛政四年

孝行者

日支配所
浅茅三間町

忠義者

日支配所
芝神明町

孝行者

日支配所
浅川蛤町

孝行者

日支配所
駒込浅草町

孝行者

日支配所
神田金沢町

孝行者

日支配所
本所緑町三町目

孝行者

日支配所
駒込香町

潔白者

日支配所
浅川楊富町

町人地借

市太郎

寛政四年

町人借居住立浅井玉庵下男

久三

寛政五年

町人借居住立六三郎

八

寛政五年

町人借居住立左馬殿

檀次郎

寛政五年

町人借居住

文右衛門

寛政五年

町人借居住立伝馬左下男

友次郎

寛政五年

町人借居住立文次後家

乙

寛政五年

町人借居住立平次郎

三之丞

寛政五年

貞忠者

日支配所
芝濱松町三丁目

奇特者

日支配所
市谷尾内坂寺町

孝行者

日支配所
本所相生町一丁目

貞良者

日支配所
本所相生町一丁目

孝行者

日支配所
南松町

孝行者

日支配所
龜崎町

孝行者

日支配所
靈岩清濱町

孝行者

日支配所
本郷三丁目三丁目

町人借居住長六郎

日
早六歳

寛政六年
清徳元

町人家主長六郎

日
早六歳

寛政六年
清徳元

町人借居住長六郎

日
早六歳

寛政六年
清徳元

町人借居住長六郎

日
早六歳

寛政六年
清徳元

町人借居住

日
早六歳

寛政七年
清徳元

町人借居住

日
早六歳

寛政七年
清徳元

町人借居住長六郎

日
早六歳

寛政七年
清徳元

町人借居住長六郎

日
早六歳

寛政八年
清徳元

孝行者

日支配所
本所永倉町

孝行者

日支配所
弓町

忠義者

日支配所
伊勢町

忠義者

日支配所
日所

孝行者

日支配所
法草渡寺地中徳應院地内

奇特者

日支配所
同寺地中泉藏院地内

孝行者

日支配所
本御菊坂町

孝行者

日支配所
渡部田町三丁目

町人借居住長六郎

日
早六歳

寛政八年
清徳元

町人借居住長六郎

日
早六歳

寛政八年
清徳元

町人借居住長六郎

日
早六歳

寛政八年
清徳元

町人借居住長六郎

日
早六歳

寛政八年
清徳元

町人借居住長六郎

日
早六歳

寛政八年
清徳元

町人借居住長六郎

日
早六歳

寛政八年
清徳元

町人借居住長六郎

日
早六歳

寛政八年
清徳元

町人借居住長六郎

日
早六歳

寛政八年
清徳元

○孝行者

日支配所
小傳馬上一町

○忠孝者

日支配所
神田富山町二丁目

孝行者

日支配所
深川相川町

孝行者

日支配所
神田溜町北横町

孝行者

日支配所
日所

孝行者

日支配所
下谷金杖村

○孝行者

日支配所
神田花房町

孝行者

日支配所
神田仲町一丁目

町人借居住

権太郎

寛政八年
所養

町人借居住

甚右衛門

寛政八年
所養

組合持火見摺番人

久七

寛政八年
所養

町人借居住

森五郎

寛政八年
所養

森五郎妻

日七

日時
所養

職人借居住

平七

寛政八年
所養

町人借居住

庄助

寛政八年
所養

左賜牌家主

半七

日時
所養

孝行者

日支配所
本郷四丁目

孝行者

日支配所
本所相生町四丁目

孝行者

日支配所
日所

忠義者

日支配所
滝若山川町

孝行者

日支配所
吉山六十八町

奇特者

日支配所
深川八名川町

孝行者

日支配所
神田小柳町一丁目

孝行者

日支配所
日所

町人借居住

吉去清

寛政八年
所養

町人借居住

与去清

寛政九年
所養

上妻姉妹

い

日時
所養

町人借居住

市助

寛政九年
所養

町人借居住

勝太郎

寛政九年
所養

町人借居住

文彦

寛政九年
所養

町人借居住

森太郎

寛政九年
所養

森太郎妻

佐右

日時
所養

奇特者

日支配所
深川三間町

町人借居住

与三郎

九十九歳

寛政九年
内寝矣

奇特者

日支配所
日所

与三郎妻

与三郎

八十歳

日時
内寝矣

貞直者

日支配所
本郷舎助町

町人借居住
貞直
吾師妻

与三郎

七十歳

寛政九年
内寝矣

孝行者

日支配所
神田雄子町

町人借居住

与三郎

三十歳

寛政九年
内寝矣

孝行者

日支配所
本町三町目

劫次郎才町人借居住

源有馬

三十三歳

日時
内寝矣

忠義者

日支配所
下谷龍泉寺町

町人借居住
忠義
下女

与三郎

三十七歳

寛政九年
内寝矣

孝行者

日支配所
小石川四家町

町人借居住

友助

二十九歳

寛政十年
内寝矣

孝行者

日支配所
日所

友助才

与三郎

二十四歳

日時
内寝矣

奇特者

日支配所
本八町堀町

名主

十九郎

五十二歳

安永七年
寝矣

奇特者

日支配所
浅草源次町

芝田町名主

次右衛門

六十歳

寛政二年
寝矣

奇特者

日支配所
上柳本町

名主

若三郎

六十四歳

寛政二年
寝矣

奇特者

日支配所
神田明神下同明町

名主

太郎左衛門

四十八歳

寛政二年
寝矣

奇特者

日支配所
赤坂田町

芝西應寺町名主

熱次郎

五十六歳

寛政二年
寝矣

奇特者

日支配所
三田町

名主

拾南

六十六歳

寛政二年
寝矣

奇特者

日支配所
芝神明町

名主

孫右衛門

七十二歳

寛政二年
寝矣

奇特者

日支配所
横山町

名主

太郎右

五十九歳

寛政二年
寝矣

奇特者

日支配所
上野黒門町

名主

助左衛門

六十八歳

寛政二年
癸亥

奇特者

日支配所
四台傳馬町

名主

孫左衛門

五十九歳

寛政二年
癸亥

奇特者

日支配所
俵内町

名主

六右衛門

六十一歳

寛政二年
癸亥

奇特者

日支配所
源川中津町

名主

忠太郎

五十四歳

寛政二年
癸亥

奇特者

日支配所
千秋各町

名主

源左衛門

七十三歳

寛政二年
癸亥

奇特者

日支配所
本八町堀二丁目

町人家守

忠左衛門

四十五歳

寛政四年
癸亥

奇特者

日支配所
新南首町三丁目

町人家守

重左衛門

三十七歳

寛政四年
癸亥

奇特者

日支配所
芝西原寺町北通

町人家守

久兵衛

五十二歳

寛政四年
癸亥

奇特者

日支配所
小石川下富坂町

町人家主

七左衛門

五十八歳

寛政四年
癸亥

奇特者

日支配所
新者町

町人家主

勘次郎

甲九歳

寛政四年
癸亥

奇特者

日支配所
弥太馬町

町人家主

傳左衛門

甲八歳

寛政四年
癸亥

○貞吉者

日支配所
小石川傳通院前白壁町

町人借居住孫七妻

七左衛門

四十七歳

寛政八年
癸亥

忠義者

日支配所
橋田和泉町

町人家持分左馬下男

太左衛門

七十五歳

寛政八年
癸亥

孝行者

日支配所
釣込片町竹町組

町人借居住

市右衛門

三十九歳

寛政八年
癸亥

奇特者

日支配所
湯島横町

町人借居住

右助

五十九歳

寛政八年
癸亥

孝行者

日支配所
北新堀町

町人借居住源三郎

源右衛門

十八歳

寛政八年
癸亥

貞直者

日支配所 源川小松代町裏町

孝行者

日支配所 小石川金板水道町

兄弟睦者

日支配所 小本所表町

○孝行者

日支配所 龜崎町

孝行者

日支配所 大傳馬町

孝行者

日支配所 三田三町目

○忠義者

日支配所 浅草小揚町

孝行者

日支配所 幸所小揚長谷

町人借倉住源六妻

之川

寛政八年

町人借倉住

初太郎

寛政八年

町人借倉住夜右馬弁

民太郎

寛政八年

町人借倉住

忠太郎

寛政九年

町人借倉住車力

汰助

寛政九年

町人借倉住魚八郎

吉太郎

寛政九年

小揚

理太郎

享保十年

流石屋所服救挽小揚

吉助

天明八年

孝行者

日支配所 比代信支配所 埼玉郡下早見村

孝行者

日支配所 足立郡浦作村

奇特者

日支配所 足立郡庄元新田

○奇特者

日支配所 日所

奇特者

日支配所 児玉郡本庄宿

奇特者

日支配所 榛沢郡横瀬村

奇特者

日支配所 足立郡糠田村

孝行者

日支配所 秋父郡上吉田村

百姓

十五郎

享保十年

百姓作金馬後家

三郎

明和三年

百姓

権友造

明和三年

持友忠伴

新井孫助

明和四年

百姓

戸谷三右衛門

安永二年

百姓

萩野七右衛門

天明元年

百姓

河野權左衛門

天明三年

百姓

森田郎

天明四年

奇特者

日支配所 秩父郡金崎村

奇特者

日支配所 足立郡下戸村

○孝行者

日支配所 秩父郡蔭田村

奇特者

日支配所 秩父郡蔭田村

奇特者

日支配所

風俗宜者

日支配所

孝行者

日支配所 横見郡一木新田

奇特者

日支配所 秩父郡本野上村

名主

宮前佐右衛門

五十歳

天明八年 所養

百姓

菅原

六十八歳

天明八年 所養

百姓

与右衛門

五十二歳

寛政元年 所養

名主

龙仲

三十九歳

寛政元年 所養

組次

年有馬

四十歳

日時 所養

百姓

惣百姓

日時

所養

名主

清八

四十八歳

寛政三年 所養

名主

嶋田六左衛門

五十二歳

寛政四年 所養

○忠義者

日支配所 足立郡鶴巣宿

○孝行者

日支配所 足立郡嶋巢宿

○奇特者

日支配所 埼玉郡槽壁宿

奇特者

日支配所 足立郡蕨宿

孝行者

日支配所 多摩郡上高井戸宿

○孝行者

日支配所

孝行者

日支配所 足立郡千住橋戸町

○奇特者

日支配所 葛飾郡幸手宿

百姓 年手次下男

兵助

四十九歳

寛政四年 所養

百姓

勘六

四十七歳

寛政四年 所養

台主妻左衛門父左配役

見川左衛門

五十五歳

寛政五年 所養

百姓

岩次郎

三十九歳

寛政五年 所養

百姓

甚吾清

五十五歳

寛政六年 所養

甚吾清

小助

六十八歳

日時 所養

町人借住

権太郎

三十九歳

寛政六年 所養

名主同左

知久文左衛門

五十九歳

寛政六年 所養

奇特者

日支配所
是立郡本郷村

○孝行者

日支配所
埼玉郡中野村

孝行者

日支配所
多摩郡福生村

孝行者

日支配所
是立郡千住宿

孝行者

日支配所
是立郡吉野村

孝行者

日支配所
是立郡栗原村

孝行者

日支配所
葛飾郡須崎村

奇特者

日支配所
是立郡膝子村

名主

大田市

寛政六年
市養貞

百姓

文右市

寛政六年
市養貞

百姓

兵右

寛政八年
市養貞

百姓

伊之助

寛政八年
市養貞

百姓
妻為悱

助右市

寛政八年
市養貞

百姓
次女清母

小川

寛政八年
市養貞

名主
子下男

清六

寛政八年
市養貞

名主

清次市

寛政八年
市養貞

○孝行者

日支配所
是立郡保木園村

孝行者

日支配所

○奇特者

日支配所
是立郡竹塚村

孝行者

日支配所
是立郡千住掃部宿

奇特者

日支配所
是立郡小島新田

奇特者

日支配所
多摩郡上成木村下分

奇特者

日支配所
葛飾郡柴又村

奇特者

日支配所

百姓

作左市

寛政八年
市養貞

名主

友右市

日時
市養貞

名主

河内久松

寛政九年
市養貞

町人
借居住

長六市

寛政九年
市養貞

名主

傳右市

寛政九年
市養貞

組
以与船父

又右市

寛政十年
市養貞

名主

母右市

寛政十年
市養貞

年寄

仁左市

日時
市養貞

奇特者

日支配所

奇特者

日支配所

風俗宜者

日支配所

孝行者

一橋敏領分
埼玉郡河原井村

孝行者

日領

孝行者

日領
高藤郡桂子村

孝行者

日領
松平大和守領分
那賀郡秋山村

孝行者

日領
入間郡大袋新田

孝寄

十二

萩右衛門

日時
内養貞

仲右衛門

日時
内養貞

熱百姓

日時
内養貞

与市右衛門

天明六年
養貞

与市右衛門

日時
養貞

作左衛門

寛政三年
養貞

福田元綱

明和七年
養貞

源八

安永二年
養貞

孝行者

日領
入間郡松郷分六軒町

農業籍

日領
入間郡久下戸村

奇特者

日領
入間郡大袋新田

孝行者

日領
那賀郡駒衣村

奇特者

日領
入間郡水野村

孝行者

日領
川越城下多賀町

孝行者

日領
川越城下志儀町

奇特者

日領
葛飾郡堤根村

百姓台吉清妻

十人

安永八年
養貞

百姓

五之郎

安永九年
養貞

名主

横山十右衛門

安永九年
養貞

百姓

金七

天明二年
養貞

名主

水野忠助

天明二年
養貞

町人大坂屋

清七

天明二年
養貞

町人小川屋

若助

天明二年
養貞

名主

片野五右衛門

天明四年
養貞

奇特者

日領 賀美郡坂本戶村

名主 利云

天明八年 癸亥

奇特者

日領 入間郡菅間村

百姓 織右衛門

天明八年 癸亥

孝行者

日領 入間郡豊田新田

百姓 佐右衛門

寛政元年 癸亥

忠義者

日領 川越城下上松江町

町人市伊勢下男 新六

寛政元年 癸亥

孝行者

日領 埼玉郡江崎村

百姓 長右衛門

寛政二年 癸亥

孝行者

日領 日所

町人進江左 忠人

日時 癸亥

奇特者

日領 川越城下赤多町

町人柏左 平六

寛政二年 癸亥

孝行者

日領 川越城下本町

次右衛門

寛政二年 癸亥

奇特者

日領 入間郡竹間沢村

名主 池上數右衛門

寛政三年 癸亥

奇特者

日領 埼玉郡裏慈恩寺村

名主 関根所右衛門

寛政三年 癸亥

孝行者

日領 阿部豊後守領分 且立郡吹上村

百姓 牧右衛門

延享二年 癸亥

孝行者

日領 日所

町人借左住 乙人

日時 癸亥

孝行者

日領 忍城下行田町

百姓 三左衛門

寶曆五年 癸亥

孝行者

日領 大里郡久下村

長右衛門

寶曆十年 癸亥

孝行者

日領 日所

又六

日時 癸亥

孝行者

日領 埼玉郡若小玉村

又六

寶曆三年 癸亥

孝行者

同領 埼玉郡荒木村

百姓

廿四

五八

安永元年 癸卯

孝行者

同領

五坊

辛歲

日時 癸卯

孝行者

同領 埼玉郡屋島村

百姓

小玄清

安永八年 癸卯

孝行者

同領

小玄清妻

二十歲

日時 癸卯

孝行者

同領 忍城下行田町

寄

古橋友左衛門

安永八年 癸卯

孝行者

同領 忍城下行田町

町人

大所左衛門

安永九年 癸卯

孝行者

同領 埼玉郡持田村

百姓

甚吾左衛門

天明三年 癸卯

孝行者

同領

甚吾左衛門

二十歲

日時 癸卯

孝行者

同領

因母

日時

孝行者

同領 忍城下行田町

町人家持

安次郎

天明四年 癸卯

孝行者

同領

安次郎妹

二十六歲

日時 癸卯

○孝行者

同領 大里郡慈谷町

新八

寬政三年 癸卯

○孝行者

同領 大里郡肥塚村

久太郎

寬政三年 癸卯

○孝行者

同領 秩父郡三沢村

六郎左衛門

寬政三年 癸卯

孝行者

同領

六郎左衛門妻

五十八歲

日時 癸卯

孝行者

安部拾津守領分 榛沢郡岡部村

百姓 小平次郎

元助

天明六年 癸卯

孝行者

松平右京亮領分
新座郡野火止宿

百姓利右馬娘

五七

寛政六年

孝行者

土井大炊頭領分
埼玉郡妻倉村

百姓

次助

明和四年

孝行者

日領
日所

次助妹

七郎

日時

孝行者

日領
埼玉郡小野袋村

百姓

庄之儀

寛政三年

孝行者

松平又五郎領分
埼玉郡上埴村

百姓

市右衛門

寛延三年

孝行者

黒田鶴松領分
備前郡西別府村

百姓

公儀之儀

寛政二年

孝行者

松平因幡守知行所
秩父郡石間村

百姓

吉之重

寛政七年

孝行者

久貝忠左衛門知行所
比企郡北園部村

百姓

伊右衛門

天明二年

孝行者

森川金右衛門下公安
約心進分

地守平左馬娘

若菜

寛政五年

孝行者

川副勝三郎知行所
埼玉郡白忍村

百姓四郎左馬娘

又右馬

寛政元年

孝行者

林大守改知行所
播磨郡材沼村

百姓兵七郎侍

初太郎

寛政六年

奇特者

星合鶴五郎知行所
久良岐郡毎下田中村

百姓弥八祖母

七之儀

寛政八年

孝行者

長坂頼母知行所
新座郡宮戸村

百姓

七之儀

寛政六年

奇特者

鳴田元次郎知行所
豆立郡寺谷村

名主

伊右衛門

天明六年

孝行者

永田松次郎知行所
豆立郡川面村

無田百姓

弥之儀

寛政元年

孝行者

山左太市并領分
小石川火之番町

地守

庄之儀

寛政九年

孝行者

山伏炮主 同心 夫部 千清 為 地 地 寺
泉鴨西九町

表八

寛政九年
御褒矣
四十七歳

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

忠義者万助

江戸浅草东仲町 安中 益房 といふ 醫者 有り
家にやつふゆれを万助といふは 伊豆國之嶋
なる 伊豆村の といれる ちと十歳 乃 時 あり 益房 有り
は 久し 二十三年 に といふ 且 益房 あり 八十 妻 有
六十二 あり して 益房 の 長 六 十 あり あり あり あり あり
り あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり
と 世 乃 人 あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり
石 つ へ あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり
と あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

出て外乃家おもつ人よか〜こりあや〜さつ〜といはれ
 移ん〜後よは〜主人の衣乃浴ひ〜にま〜ま
 川〜か〜と〜此〜つ〜ち〜と〜日輪寺此前よ〜と
 勤助〜つ〜の〜を〜か〜る〜と〜夜〜た〜く〜智鏡〜く〜事
 を〜業〜と〜す〜つ〜つ〜に〜侵〜後〜と〜論〜く〜主人を〜盗〜ひ
 家〜ま〜り〜ふ〜時〜い〜さ〜ら〜に〜れ〜よ〜あ〜も〜と〜て〜ら〜り〜ぬ
 享保十七年火災あり〜時首座乃あゆ〜と〜ら〜ふ
 し〜き〜を〜抱〜さ〜く〜三の〜や〜け〜る〜初〜と〜家賊の〜と〜り
 た〜く〜焼失や〜く〜は〜程〜も〜海〜く〜と〜裏〜へ〜く〜と〜は〜町乃
 裏屋よすめ事〜と〜て〜町乃裏屋を〜路次の〜ら〜よ

志こめあ夜と表はれ〜を〜と〜せ〜ら〜り〜万助智鏡〜ら〜く
 業〜と〜て〜く〜軟ゆ〜く〜ゆ〜た〜ら〜れ〜家〜よ〜主人の妻は〜孫
 次乃〜長〜こ〜を〜と〜ら〜ら〜き〜く〜た〜何〜と〜思〜ふ〜事〜あり〜
 く〜に〜を〜板〜と〜ら〜ぬ〜勤助〜の〜か〜こ〜よ〜い〜福〜つ〜く〜夜〜あ〜けて〜と
 帰〜り〜く〜か〜く〜海〜く〜心〜成〜つ〜ま〜し〜け〜れ〜は〜主人も〜その〜も
 し〜と〜め〜れ〜よ〜お〜り〜と〜て〜年法住持乃家よつ〜人〜居〜ら〜る
 娘を〜す〜ひ〜こ〜り〜万助よ〜先〜あ〜え〜ん〜か〜と〜思〜え〜ん〜
 万助さ〜ら〜小園い〜と〜決〜え〜ら〜あ〜あ〜ら〜と〜あ〜ら〜と〜よ〜り〜と
 り〜は〜く〜次乃年毒伯と〜い〜ふ〜ふ〜の〜と〜よ〜い〜と〜と〜聲
 こ〜と〜と〜此〜家〜び〜つ〜せ〜ま〜り〜あ〜ら〜ら〜く〜い〜り〜後〜と〜い〜ら〜は

江戸新茶物町より先づ醫者石川東雲小づえり
 曰十九日のはより東雲中風を病ひては是もかな
 らしむる醫業乃事もあるかゆくも此のいふはあな
 けれうかにさういふものもさすく庵さかもさう
 いやまうにさういふものもさすく庵さかもさう
 めをさかもさういふものもさすく庵さかもさう
 あらうのつら病愈へさめれとも思ふ次第をさすく
 さんけきさういふものもさすく庵さかもさう
 よ年久しきは久しき方の主人此病ありぬきと
 りんすくい出づればやう庵さかもさういふものも

店より向う此まういふに久物うりり小ぬきと人
 愈し布子をさういふものもさすく庵さかもさう
 へるもみえのいふ自なる平き清とてはさういふに
 ないさういふの清く東雲う庵に傳はる茶方よ本番丸
 こいふ茶葉を割き一日とて賣らるればさういふ
 さういふいふのいふに佛よさういふの横さういふ
 うりり東雲とてはさういふの庵さかもさういふに
 出ふとれと合物と酒とち茶乃やういふは左隣乃
 りのとれとれとち茶乃やういふは左隣乃
 利ありはとていふものもさすく庵さかもさういふものも

かよひかく病者のつとをわたりしむるはあはれ
 衣れきつり糸はこゝききたらぬぬをもぬきくきつる
 子と是と懐よいつく暖うあらう先長乃思と
 ぬはらう屋のつとせは位名成よと後世よ負出く
 涼ませ衣と暖帳とりのあけとこ草の衣と
 りく匹をわひぬして枕をあつこぬ折よ婦と
 とやハ糧をも小走くこととのれは是磨のこつたや
 多し衣履の垢つをぬをもつら洗とぬあつ
 けり久助う年比のたをを障のりぬつひもやと
 牛くに元文元年春まゝの御へ出くは町なり

稲生下野守令と傳へく後とこく成をぬりぬ

孝行者古太郎

古五郎ハ江戸神田根治町一町目忠七こつらあめ
 子なりいしげまれば父母もふしせまぬ北橋町
 伯父熱志のゆまにりり二町ありし年神田多
 町二町目より先ち四町を流こつらあめの子なり
 くに八葉のこつらあめ母れこつらあめ
 りぬと二人裏屋小住て母の手業に人ぬ衣洗ひ
 してめ信をとりしを見ぬくくけりを年北十月
 母子ともに時度をやと枕を並へく外に

親族とともにつまは家ままの相店のめれくむ射
 小あ食中をたもせしと告み席こつ物の定
 きをいとも使母のそむよ葉成葉くゆつ湯な
 こあつめ進めつくとおつて二人とも金ぬ十感
 り次より梅子菓子のをくいを煮く母とよあひ
 よ年十五にあさる母又病りゆつこれ葉と
 まあをふふ成つげ日といき葉大根やうれあ
 ちあつていけつ日備ふと屋とくくせと
 せり隣の町は塩尻といふあつてとてあ母
 をあつてゆつ塩尻のといふ外とてあを葉くわ

災とあつて力とを次こつてもあつて病どのつとあ
 腰そふともあつて二使の月も人のあつてあ
 とつあつてとつたあつて母と病よつてあ
 らふあつてあつてあつてあつてあつてあ
 けつあつてあつてあつてあつてあつてあ
 おあつてあつてあつてあつてあつてあ
 まあつてあつてあつてあつてあつてあ
 らあつてあつてあつてあつてあつてあ
 を用達も又あつてあつてあつてあつてあ
 年次あつてあつてあつてあつてあつてあ

種なく父屋を死せり乃ち母らくとゆふれ
 母もまこと切らせしむるなりとてあつた
 ろくつ見れ大工の職して本所菊川町ふと先づ
 左邊の方へ二人ともよ引らりぬ金籠に於て先づ
 つと大居を主人甚大驚つたまをけりつて人々町
 石法よりあつた二日つて宿入とてあ月途のあ
 ところせり各れ好むてあゆむむらなつてあ
 金籠にのりてあつてあつてあつてあつてあつて
 ひ文く後又さるる夜をさみさああつてあつて
 終日母乃側よりあつてあつてあつてあつて

くお年をれをさるる主人もは本をさるるあつて
 いあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 永四年暇をさるる今れ居小つたためを年八月
 本所柳原よあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 つかつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 業をつとあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 くはあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 もまつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 場所よりあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 高しちやうくはあつてあつてあつてあつてあつて

母乃をよとやとめしたをく小梅代地町よりつる
 比面を求り小梅をつくりし母をよとせやと先春田
 町よりいれもなつてつるよとよと日赤ふつる附を
 つるつれをゆとよすけとせんとく妻をもじり
 おとよ小孝をよとせやとせやとする種り母中
 風をよとて刃れさうん腰え痺せありと事も
 叶ぬう人眼えうらまのりけれと涙をよとつるな
 ちたてく月よ及くこれやとの儂貴とよ事成もせめ
 じりかして醫老をもとむとつるいあひむ人療養
 もととよと薬せん一會也御つる事もつるなり

うとあれをつとむ眼あれと例子つて徳勝を極す
 二役の附乃をすけをなつ夏冬より小つと湯と好
 していれにせめひく風をよとせよれは成も後
 高ひ小梅つて心乃及ゆつるなつるまもあひをゆ
 と及をよと事ともせ次をゆと母れり小つと女
 名とよと又かぬと事成つとむとのけをよとせよ
 知るとなく若田町乃家名成よと次孝行酒をよ
 あんせよととのあをよと天明六年北秋西志けく
 お水ありてなつ性来も危くありとゆけと母の家
 とせつけくつる背負ひては難をよとつるよと

とくは此の中の番成衣被るが烟とさうぬ
うのそとぬくおとあつて屋うや今之松坂町の蓋と
かきさけさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
うさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
既之若是所よ住くはも孝りさうさうさうさうさうさう
許へんとせし住ぬと他人移しぬとさうさうさうさう
てやさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
阿茶さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

忠義者小ま橋

江戸通油町小馬具を若き橋さうさうさうさうさうさう
也て他家より来たるも此家と結しよおれさうさうさう
年未今の若き橋さうさうさうさうさうさうさうさう
と此いさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
由んとしはよ若き橋さうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
ららららららららららららららららららららららら
若き橋さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
つらららららららららららららららららららららら
めさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

うりつと小玉橋いふもねと主人とのりたてまつ
 らるるをいふけしとのにまて反懐よつて給とせむ
 意乃屋敷へも春お席と抱とゆれとれ用をわら
 ぬうに心とせせしけりし得意もゆと小玉橋より
 けりかくも若き橋あつてかすりたりとありあれも
 又律義さうもれとて小玉橋と親乃てくまひま
 婦とて小玉橋とよびく屋敷よりゆるの金銭も
 又小玉橋よみとて存こり用をふへぬ小玉橋主人は
 いけりとれよりゆり金とてけりし事なとあり
 ねらねむとてお小玉橋も忠義のつむりありて成

きたりておのりし事なとありしに
 終て得意乃あつて小玉橋の事とありて人
 とありていふ事とて主人もいふ事とせし見政と
 年二月町奉行小田切吉佐吉むいよとけり人浪なま
 してとれ忠義と稱しつとて小玉橋ありと
 八十二とありてあり

忠義者重助

重助は江戸桶町一町目乃東主と在馬つゆはは
 ひたりと在馬つ祖父も父もとて在馬つゆのり
 祖父の時より町の敷とつて先酒儀らありてと

けり松平左衛門乃屋浦のららに出入りあるをい
 是又之しから次重助とて十日の辰年季とけり
 然くはあつて人そあり泊りやるとは辰年
 遣てとも成之しは久在とて資暦十二年り
 組父とやともあり也其子とて所あつたりとて辰年
 名のり家とつてとて小昭和二年も母もたつてあり
 同日年四月八日小令とて辰年辰月廿九日全
 六町りの火焼るもつて辰年辰月廿九日全
 火をさけ父松左衛門とて病あつて辰年辰月廿九日全
 辰も家財もとて焼失く家産もやとて辰年辰月廿九日全

小次志ふよ重物祖父乃けり辰年辰月廿九日全
 父也つて辰年辰月廿九日全辰年辰月廿九日全
 助り方の辰年辰月廿九日全辰年辰月廿九日全
 心とて辰年辰月廿九日全辰年辰月廿九日全
 火にあつて辰年辰月廿九日全辰年辰月廿九日全
 とて辰年辰月廿九日全辰年辰月廿九日全辰年辰月廿九日全
 う辰年辰月廿九日全辰年辰月廿九日全辰年辰月廿九日全
 乃辰年辰月廿九日全辰年辰月廿九日全辰年辰月廿九日全
 あつて辰年辰月廿九日全辰年辰月廿九日全辰年辰月廿九日全
 くとて辰年辰月廿九日全辰年辰月廿九日全辰年辰月廿九日全

今此五原為もと十二歳めくむけよつてまふまを
 主物うまはまことをはくせれを感へぬまの役々
 女入組のもれこころに引うめくたすけつて先を
 けり主物いよくをさめりなく日くに五原とつき
 をあまかといあその月成とくくを補うても
 それ忠を感へてつりまを思へれとあやうれぬ
 責をかくふけらして五原とともふくなくく事
 ぬか主物う年束の艱苦とくかにならうといこよ
 老よりとくくも後主敵此事のとて思ひ去別乃
 申をあたま乃と田よりうく地も危たうくを

力にかまを分くあはあひゆれまなあつてもふか入
 しく両物る時くせらにとくなく五原ののをせつら
 五原も又傑義うぬりのあま主物と親もた
 のことこの病れあはけく互にきまけて敵の内も
 ひりまうかりまゆとや十回乃ゆりたう七十四
 小つからまてうくくはぬ義のがことさくえりあ
 是と寛政二年二月り銀をぬりてあれを度し
 給ぬこと町奉行ハ小田切公信守なることかん

孝行老さよ

源川北川町は梅磨とてつてせははとてする盲人

昔とていふれあつた先乃とて妻とていふれあつたよ
 こいふ娘をつれはぬよまはつた志はぬよいよ
 父母よとては人父乃自もあつたよとてはぬよいよ
 といふかいつとていふ家賃つげせぬよ武蔵のれと
 といふかいつとていふはつたよまはつた志はぬよいよ
 まあひ又と文といふ事とてあつたよつた志はぬよいよ
 海つめく曰書孝経をもとめんよとてあつたよとて
 志わつたよれを母一人をさすけもくといふかいつと
 眼とつてとてぬにといふ父乃業はぬよとてあつたよ
 きりかといふとていふ事とてあつたよとてあつたよ

あつたよれあつたよとてあつたよとてあつたよ
 女乃道のあつたよとてあつたよとてあつたよ
 りぬとつたよれつたよとて親とれもぬとつたよ
 孫よ物見せぬとつたよとてあつたよとてあつたよ
 是事つげるとよ事とつたよとつたよはまはぬよ
 よと二親乃とて先とてあつたよとて父母のよ
 をつたよにもあつたよとつたよとつたよとつたよ
 おとくよ親は養女事とつたよとつたよとつたよ
 二年二月日銀とつたよとつたよとつたよとつたよ
 町を小田切とつたよとつたよとつたよとつたよ

孝行者勅次席

勅次席は江戸森下町長八の子あり長八も及
 木綿とありふいに利あり次して二十二年ま
 小はあよりまうと夏曆をさけくさく世に送る
 といふ乃年勅次席の妹むゆとまた又女子あり
 来て一歳五人のくじとなりくに勅次席年十二
 くの夏曆をさめふいあうのあうの十日後に
 といふ長八のあふ小のころく夏曆をつまむ勅
 次席の一日にふあつてあふ出て養あつては
 十九年といふ才新次席生れは長八のあふ

産屋のあつてはのあつては及勅次席の
 宣り初りの起く夏曆をさけくさく世に送る
 といふ乃年勅次席の妹むゆとまた又女子あり
 来て一歳五人のくじとなりくに勅次席年十二
 くの夏曆をさめふいあうのあうの十日後に
 といふ長八のあふ小のころく夏曆をつまむ勅
 次席の一日にふあつてあふ出て養あつては
 十九年といふ才新次席生れは長八のあふ

母老くく四月より七多共八希之湯う店より梅う
りふ町奉行小田切と佐守奥えあけく銀結より
くさくさく夏ぬ二年二月の事あり

孝行者祐心

祐心とくく先京越西陣乃織物より織入利之湯
うふにて若と新之湯こより毎う正條富小路より
伊勢屋市之湯より小奉とせり市之湯江戸石
町より十新之湯とつあふ店代山新之湯もは店
り共りて居に市之湯の家産屋よりくく二人く
此店とやめ山く時新之湯も京より入らんとは伯父の

孫若山とく教の若の片門若此町より成をより
いふまふいよとて行に孫若山も年充てよりなれよ
その新之湯とく先く養ふとせんく新之湯と
主人の所用もあれはと向うよ京くあねとせも
かきとちりふんとしあを伯父の京にうきうふ
きてちり来らんるかあうんとてはよゆり入り
あふりあ主人るくく親乃のくあをくく本と
いひりしう主人といふくく親もこれとよゆり
せぬとくしより若と決之湯と改り孫若山う志ふれ
そは煙草高ひくく世代いふくく孫若山

多病よちりしは次を請き入の力よちり二親と
 さやりに火災小あひしてそれさひよ苦しくは母の
 親里塚町乃やうりよられをそれちるまにやうて
 あうり迎に和泉町に裏店をかひりりひし
 高のちもふく次を請きうり家の洗法又ひそ
 きもれはまきうりて父母をまきまよぬり
 神田臨新町より出火よちりありつれものを
 焼失ひせんさうりて浅草猿菴町一町ち代地と
 して西よ店成りり世業とうり又ひ新をうりて
 火貸法よちりて舟日備よちりそれちりて

ちりて遊まよちりて一町乃ものもあつてまき入
 して小父母ともに老衰よちりて食を求り酒を
 ちりよそれ物ちりていりてゆる所の法よちりて
 ちりて二年二後ひ酒のあふよああたのこ母は
 二十一年前より中風よちり身を動かさるもゆり
 ちりて次次を請ひ日りにあうり物せひ二使のちりて
 免とちりて敷に入て近江市の湯よちりんとちりて
 菓子をあふりてゆんとちりて童形をまか次ちり
 ちりておのちりてあおひちりて湯よちりて
 ちりてあをちりてあ乃村松町乃火よちりて浅草

族善町二町目北代地よりけついふく因茲せしは以
 母の自志ゆへにむすしりし一氣満ちる事乃と
 して心ゆく事なきをいふ一日と出くはるま
 とれん夜食ともいつさかぬ母を去ぬはま
 にむすいふかてはけつを給ふあけつぬ父を
 七年前に八十一歳もくうせぬは母もくは
 もあつ痛く死に今いふやとく世をいつてはあ
 まらしては是の事いふく病の信人乃ゆふ引
 たりし事もとれんをちりかては是の法善阿弥川
 町法成寺のす子となり判發しは是代結ふとあ

らふ先人此門にたつてをる自ささうけつかく年
 月乃身をもくけつりく父母代善いふも町の
 役人町をわ小田切去佐与し傳へては寛政三年月
 一銀拾一のきり

孝行者勝三郎

勝三郎は江戸深川小松代町一町目の地借みて父傳
 玄清の以り死毒の薬桶とらふとあ世代またふ
 りれはつり父とくうせ母乃ま川といふからあつ
 子によせられろよつ人あつて孝とをせり勝三郎
 男子いふて娘二人もらたり姉娘よ舞つれて父乃

名成儀の借き侍とつひ妹とふは嫁くぬまふふよせ八
 重とふに姉と病てうせあつたふかぶるは娘との男子
 と人出来たらあつたはなつたはなつたはなつたはなつたは
 いなつたはなつたはなつたはなつたはなつたはなつたは
 先地をもつくとつたはなつたはなつたはなつたはなつたは
 昔其ちうの女ふく家業に力とつたはなつたはなつたは
 母と若女とままとつたはなつたはなつたはなつたはなつたは
 何事とつたはなつたはなつたはなつたはなつたはなつたは
 事ふもつたはなつたはなつたはなつたはなつたはなつたは
 と樂とつたはなつたはなつたはなつたはなつたはなつたは

弟とつたはなつたはなつたはなつたはなつたはなつたは
 何とつたはなつたはなつたはなつたはなつたはなつたは
 ちとつたはなつたはなつたはなつたはなつたはなつたは
 てつたはなつたはなつたはなつたはなつたはなつたは
 りつたはなつたはなつたはなつたはなつたはなつたは
 とつたはなつたはなつたはなつたはなつたはなつたは
 風とつたはなつたはなつたはなつたはなつたはなつたは
 つつたはなつたはなつたはなつたはなつたはなつたは
 財のつたはなつたはなつたはなつたはなつたはなつたは
 あん母は夜とつたはなつたはなつたはなつたはなつたは

食せしよりよみおれ別のはさうとてい貴てととぬを家
 の内れおれとていお物さく橋之岸一人起ぬと
 切通をさくつとていせとて母の病をさめれと
 便乃事さく人のよにさるぬと道よあつと
 せとてさう町奉行小田切と信守なりて定ぬと
 と存ふ銀給とて孝行の者成給とてさるありと
 数とてめれさうとてい

奇特者傳六

江戸淺草之間町は質とて事とて業とて世とていと
 ふ傳六といふあり妻は二百歳とてはよらせ娘二人あり

幼は男女二人ありはとて病さうすへて高人の利を
 主人とてさくひを教へぬりしれぬ質とてと金
 をかかせぬとてさくひを教へぬりしれぬ質とてと金
 とて家業は似つて次篤實とてな性よとて物をさめ
 んと妻ふりのあれとてさうて質とてとさふよハ質物の
 あつとてのあつとてさくひを教へぬりしれぬ質とてと金
 隣とて門よとてさくひを教へぬりしれぬ質とてと金
 昔乃凶年よ世中をさくひとて時とて病たさく人
 せとて世とてさくひを教へぬりしれぬ質とてと金
 強りけつとてさくひを教へぬりしれぬ質とてと金

何れ人より高ひのゆゑより書をよみし事をこのま
 同所乃 謙席もとけりといひ迎れりうこれ老もゆす
 此をいふと借六とありて是之郡篠葉村に民借有る
 子なりといひけりあきより江戸に出く市人より二十
 五人に同町に店をもち今の業とありにこれ篠
 葉村乃 名主吉助と子此領借との借主ありて
 取田を質しして二十兩の金貸りてに名主の家裏へ
 ありてのいへくもらぬをこし方此出するありといひ
 父借を為さるもれもかきりてすけをゆき事もあ
 せりといふとかくいひてりて寛政元年の四月に利

ありてく軍兩の券出をえりけり又名主のりて
 追地二町之及ありて賣出候と人にてはありて
 たりよ金百ありありありてとて借主あり
 價小二十ありて買との同年六月に父借を
 周忌ありてりて村より之をえりての借主
 といひけり田をりて喜提するなりて
 乃社人又と親戚のりれよとありてりありけり
 かり奉納のりれられた二年に冬海へ出て二年の
 二月に銀をりて海へりてりてりてりてりてり
 町奉行のりてりてりてり

奇特者新右衛門

新右衛門の芝三浦町ありのふり妻を具し一毎二男
 一女をあり居はみゆれも二人を子よ菓子とらりて
 いかかといふ天性故とく好まを人高給父の高し
 りゆれをうやよれ價ををさうせん事いせむと
 つまにまうせむと其子の新右衛門おれりの高し
 まかひのゆよとつれ價を二つりてたうれむと
 とらりて事あるにむかひつよまにむかひ結
 りたうといふを新右衛門つりれはせよむかひ
 高しつかりて胡と起くまにむかひむかひむかひ

毛暑風ぬきとつとれとま若くも終は倍せり且れ
 らおとれと人は夜も事もあるかてくせえては價を
 あらとれとてあつたのいふまふゆとあひまといふ
 高くむかひとむかひも又あつたあまのほおりの
 價をいふとせし若れあつたあまのほおりの
 とあつたといふ事たうとてい海へけらまの改持心よ
 出人と思ふとてむかひと出く樂人もほわたり
 とくあつた酒青とてい免りけりあつたあま
 とつたといふはむかひとつたといふあま
 と娘とつた孫をも抱きつて自らあつたて子供地倍

とちりの男女も七人となり出づつふがふちうぬ天
 乃更助よりふへのかき人といふもいへきけふ寛政三
 年三月小鍛をまかりし一町を新小田切に傳ふる事あり
 忠孝者存八

在公入間郡鶴岡村の百姓勤ま清う子たうり年十二に
 乃比より江戸神田久松為町小座がりふあすける文右為
 也子めのも十年とつれうとく仕入りの文右為を養ふと
 高ひ二母世成りてとらに家産やう養へくは田所
 町小うはりすもゆきとあれさひとてく又二十一年
 前より火災よりあひりてく家産くもゆきとて在八う年孝も

とをゆきかに使月ゆきをう小仕入くもぬるれもくも
 終り仕をまかりてとてかき養うくたるとぬせ八人
 つうむゆきたらひ歳年はらむもかきとあつて
 高人らとたうりてん年かてくゆきと眼とつれへとせ
 つふといふとる地より養ふれく主人の家乃養へる
 心たけれらうゆきとてゆきとては家をおとさんとて
 給金ともその次文右為とも日に日くいすれ衣被又ハ
 右れ裁きその敷を高いくもをうく小世もてする
 もりやとくあつて文右為を二年あつて二十一年は七

町目り、故に、主になむり、故に、主の役を公用とす、く、まう、こ
 市町の事、まを、ひつ、入、と、高、ひ、乃、事、小、南、を、と、花
 八、と、い、ふ、は、は、先、事、意、ふ、る、あ、一、母、と、六、十、九、歳、より、
 先、乃、故、に、あ、り、り、り、小、あ、れ、と、志、を、と、ま、り、川、思、ひ、ま、う、く
 あ、ら、ぬ、ま、う、一、と、ま、ま、ま、一、ま、入、の、使、も、た、あ、る、成、り、こ、七
 店、成、お、わ、と、さ、う、は、母、と、弟、入、と、の、あ、る、事、り、ん、事、を、れ
 物、と、志、と、一、り、り、小、あ、れ、と、志、を、と、ま、り、文、志、あ、り、い、う、
 と、志、と、一、り、り、小、あ、れ、と、志、を、と、ま、り、一、と、志、と、一、り、り、
 を、お、ひ、ひ、く、と、の、れ、う、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 せ、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、

町奉行小田切忠守よりお見え上りに、故に、主入の家は
 養へ、ま、り、時、初、年、より、つ、り、り、り、一、恩、義、を、り、り、り、り、り、
 一、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 一、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 一、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 一、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、

孝行者百之助

百之助は江戸中郷金助町乃りの家にと生る、花ハ、
 子あり、も、せ、湯、傳、六、町、目、小、す、と、一、終、本、若、花、と、り、り、
 浪人の子ありし、う、生、れ、一、時、う、の、母、に、乳、た、り、く、花、ハ、
 の、り、り、り、乳、を、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、

元ハうまふとたのめりし経かくる言ふ死く母を
 を死ゆふふ再婚せしこと今と便をたふさく百を
 賜らひようふいしるちしる成長さくはよきあつて
 心きく和らうあてつ稱はあらぬ友とてむつとあつ
 うしぬうをうかりしは母乃のつよ七とむ経茶をり
 多病よるうあつちちちを百と賜うくうね人
 十歳のはしつて六夜をておく母此側よあつと
 授ふりしはく積のあははくあまを母とむとむの
 うらもつとつはるうま次しああ抱く二便よとつれ
 せしゆきり去年十月の頃よりと書父は八と向く

時ら此野菜物ちと賣おほえしるをらとて終て
 必うりあ母乃の病とそひ薬あつて湯茶をとりり
 食事志しと先とせはく一日も怠らと申たつて在ハ
 酒を好はらうは種久く死すようふをむに費用と
 多けしとる家産も乞く酒をとむけらとてくあ
 飲む事あつしと百と賜思もよりすけらものと
 終らく父をさへ病者とたつてふいふあつしり
 さんと思ふおつて高ひのたよかたはむをいせ
 しろらる利往しあ海とめり先父う海と来るとゆ
 て終しはよすくめけり同と書種とたつてしと終く

